

オムロン株式会社 2020年度 2Q決算
投資家様向けウェブ・電話説明会 質疑応答（サマリー）

（2020年10月29日）

<全社業績、経営・戦略>

Q：付加価値率アップによる付加価値増の要因は何か？

A：制御機器事業をはじめ、すべての事業セグメントの成果によるもの。

全体の売上が落ちる中でも、コストダウンやソリューション化、売価の維持など、様々な打ち手を実行し、売上総利益率を向上させている成果が出ている。

Q：下期は、売上・利益を保守的に見ているという理解でよいか？

A：決して保守的に見ているわけではない。

下期に活動強度を上げることや追加投資の実行を織り込み、ベストゲスで見通しを策定した。

Q：今後を見据えて、事業ポートフォリオをどのように進化させていくのか？

A：事業ポートフォリオは継続的に見直す必要がある。

評価軸であるROICと成長性を変える予定はない。事業セグメント単位の見直しは今のところ考えていないが、セグメントごとの事業ユニットについては不採算事業など必要に応じて見直しを検討していく。

<制御機器事業 関連>

Q：中華圏が好調な理由は？

A：2次電池や5G関連など、投資が活発なデジタル業界の需要を的確に捉えている。

また自動車業界におけるEV投資や、太陽光パネルなど、他の業界においても売上を拡大しており、他社を凌駕する成長を実現できている。

Q：上期に対して、下期の売上を厳しめに見通している理由は？

A：上期に好調だったデジタル業界の一服感や、季節性による減少を織り込んでいる。

事業環境は、エリアや業界によって改善はしているものの、全体ではまだら模様。

活動量を増やして、需要を的確に捉えて売上拡大に結び付けていく。

<ヘルスケア事業 関連>

Q：Apple Watchに対して、ウェアラブル血圧計などの機器はどのような強みがあるのか？

A：オムロンのデバイスの最大の強みは医療機器であること。医師が確定診断にデータを用いることができる。

さらに、オムロンでは心電と血圧の両方を計測できる。

<社会システム事業 関連>

Q：鉄道事業の今後についてどのように見ればよいか？

A：鉄道各社は厳しい状況がしばらく続くと想定している。一方で、中長期の観点では、人手不足の解消や効率化、

さらなる利便性の向上に取り組まれているので、事業機会を確実に捉えていきたい。